

伝統文化

宮城島に現在も受け継がれている代表的な芸能や年中行事について紹介します。

ハーリー

旧暦5月4日に行われる競漕行事です。ハーリーの伝来について『琉球国旧紀』には、長浜大夫という人物が中国南京の爬竜船を模倣して造り、太平を祝すために那覇港で競漕したという俗説があります。現在、宮城島では桃原集落でしか行われていません。桃原のハーリーは、かつて平安座島に向かって片道800m、往復1.5kmほどの距離を競ったそうです。現在は新暦5月の日曜日に行います。



桃原自治会提供

エイサー

旧暦7月15日の盆に行われる伝統芸能で、先祖供養のために踊られます。青年会を中心とした若者たちで構成され、神アシャギなどの拝所を廻ってから家々を巡り、庭で踊ります。現在宮城島では宮城集落でしか踊られていません。



ウシデーク (白太鼓)

ウシデークの起源についてははっきりした定説はありませんが、主に沖縄本島及びその周辺離島に伝わっています。五穀豊穡に感謝し、ムラの繁栄を祈るなどの神々に祈願する祭祀の舞踊(奉納舞踊)です。宮城集落ではムラの女性だけで踊られ、旧暦8月15日に行われます。



十五祝い (ジュグスージ)

数え15歳を迎える男子だけ行う行事で、成人祝いを目的としています。上原集落では新暦1月1日、宮城集落では旧暦1月2日にヌル御殿へ行き、神様に成人したという報告を行います。神人の方と盃を交わし、三線に合わせてコーサンクー(クーサンクー、空手)などを踊ります。



宮城自治会提供

宮城島の概要

宮城島は桃原・上原・宮城・池味の4つの集落から成ります。島のほぼ中央から南に走る断崖層によってできる高台と、その周辺の低地に分けられます。高台はイーバルと呼ばれ標高100~120mの琉球石灰岩の岩盤によって形成されています。

- 面積 / 5.51km²
 - 人口 / 816人
 - 世帯数 / 415世帯
- ※面積と世帯数と人口は、平成24年10月現在。

桃原

世帯数: 121
人口: 256人(男性140人・女性116人)
※世帯数と人口は、平成24年10月現在。
桃原公民館連絡先
沖縄県うるま市与那城桃原400-3
TEL:098-977-8182



上原

世帯数: 138
人口: 272人(男性154人・女性118人)
※世帯数と人口は、平成24年10月現在。
上原公民館連絡先
沖縄県うるま市与那城上原74番地
TEL:098-977-8166



宮城

世帯数: 99
人口: 185人(男性104人・女性81人)
※世帯数と人口は、平成24年10月現在。
宮城公民館連絡先
沖縄県うるま市与那城宮城163番地
TEL:098-977-7924

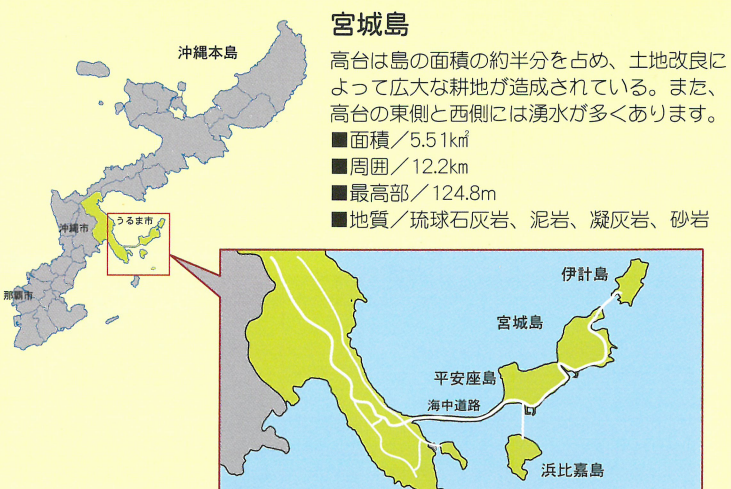


池味

世帯数: 57
人口: 103人(男性60人・女性43人)
※世帯数と人口は、平成24年10月現在。
池味公民館連絡先
沖縄県うるま市与那城池味937番地
TEL:098-977-8256



INFORMATION



沖縄県うるま市教育委員会
〒904-2226 沖縄県うるま市字仲嶺175
電話 (098) 973-4400

うるま市
文化財シリーズ 10

宮城島

高台からは東に太平洋、北に伊計島や山原の連山、西には沖縄本島中部、南に平安座・浜比嘉・津堅の島々が見渡せます。周囲の島々より高いため、「高離島(たかはなりじま)」と呼ばれています。

宮城島の民話・伝説



亀に助けられたおじいさん

約250年前の話です。上原集落に漢佐伊という60歳の余りのおじいさんがいました。ある日、サバニ(舟)で具志川に行った帰り、急に舟がひっくり返り、島から約6km離れて漂流してしまいました。その時、亀があらわれおじいさんを背に乗せて西原の岸辺まで送ってくれました。(『救陽』より)

宮城イッパー

大飢饉のとき、本島からソテツの実を盗みに来る者がいました。それがあまりに強い者だったため捕まえることができませんでした。島の人々が食べるものに困っていると、そこに宮城イッパーという棒術の名人が現れ、棒術で盗人を捕まえました(『よなぐすくの民話』、大正生まれの男性)。

仲村渠マカト

機織の名人で、かつ類まれな美声の持ち主だったマカトは、首里王府時代の伝説の女性です。首里の役人と恋仲になり、上原村のタカメーじ(現公民館)の北側に住んでいたと伝えられています。また、同地には平敷屋朝敏の妻・真亀が住んでいたともいわれています(『島めぐりガイドブック』より引用)。

桃原集落の発祥

桃原の昔の地形は、今の集落の北と東に陸地があり、半分以上は砂浜や海だったといわれています。陸地は狭いですが、土地が肥沃なため、上原、平安座、浜比嘉、首里などから移り住み、屋取集落を形成しました。最初は上原から喜納家が移ったといわれていますが、はっきりした年代は分かっていません。



沖縄県うるま市教育委員会

宮城島の地図



ハルガー

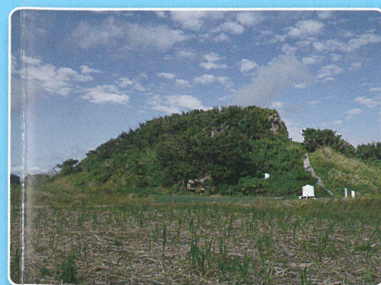


クカルンダガー



宮城島を歩く前に読んでみよう！

- 遠藤庄治編/『よなくすくの民話』、与那城村教育委員会、1989年。
- あかち会編/『しまくとぅば 与那城村宮城島の方言』、あかち会、1981年。
- 宮城島郷土誌研究会編/『ガイドブック島めぐり豊かな自然と古い歴史のナゾを秘めないやしとロマンの里宮城島』、宮城島郷土誌研究会、2013年。
- なあくすく字誌をつくる会編/『なあくすく字誌』、宮城自治会、2005年。



泊グスク

井 泉

- ① 桃原ウブガー
- ② } 大道部落グーの井戸
- ③ }
- ④ アギチャガー
- ⑤ クンディガー
- ⑥ ハルガー
- ⑦ シムンカー
- ⑧ メーガー
- ⑨ ンジンガー
- ⑩ ヤンガー
- ⑪ ジョーグチガー
- ⑫ イキントーガー
- ⑬ シラミガー
- ⑭ クチャガー
- ⑮ ンズガー
- ⑯ ウンチカー
- ⑰ タチチガー
- ⑱ シルマシガー
- ⑲ ナンガー
- ⑳ クカルンダガー
- ㉑ ウッタガー
- ㉒ アクナガー
- ㉓ ンダカチガー

遺 跡

- ① 桃原貝塚
- ② デーンバル遺物散布地
- ③ 高嶺遺跡
- ④ シヌグ堂遺跡
- ⑤ 日奈田遺跡
- ⑥ 西原遺跡
- ⑦ 深川遺跡
- ⑧ 赤山遺跡
- ⑨ スンチナー遺物散布地
- ⑩ イークン山遺跡
- ⑪ ニームトゥヤー遺物散布地
- ⑫ 南グスク
- ⑬ 喜名遺物散布地
- ⑭ 池味貝塚
- ⑮ 大兼久遺物散布地
- ⑯ 池味集落北貝塚
- ⑰ 泊グスク
- ⑱ 宮城遺跡北遺物散布地
- ⑲ 宮城遺跡
- ⑳ 火立て

桃 原

とうばる (方言名=トーバル)

琉球王府時代の士族等が移り住んで形成された屋取集落です。その後、平安座などからの移住者で人口が増え、1916(大正5)年、11月17日に上原から行政分離しました。その集落は「トウバルナンダギー(桃原南嶽)」と呼ばれる伝統の琉球古典舞踊があります。また宮城島の中で唯一ハーリーが行われています。

民俗文化財・その他

- ① 西方位神
- ② 塩田跡
- ③ 災害復旧・耕地整理記念碑
- ④ 護岸跡
- ⑤ 戦前の製糖工場跡
- ⑥ お宮(桃原守護神)
- ⑦ 桃原共同販売店
- ⑧ 簡易水道タンク跡
- ⑨ 桃原土地改良之碑
- ⑩ 戦後の製糖工場跡
- ⑪ 上原御嶽
- ⑫ 卯方位神
- ⑬ 宮城御嶽
- ⑭ 竜宮

※民俗文化財の①、⑫、⑭は個人が設置した祠です。文化財ではなく、記録として表記しました。

井 泉

- ① 桃原のウブガー

遺 跡

- ① 桃原貝塚



桃原ウブガー

桃原集落内にある唯一の共同井戸です。「ムラガー」や「共同井戸」とも呼ばれています。昔は、子どもが生まれると、この水を産湯に使用していました。1876(明治9)年に初めて造られたといわれています。旧暦の元旦には若水として先祖に供えて、一家の健康と繁栄を祈願し、お茶を沸かして飲みました。



お宮(桃原守護神)

このお宮は上原集落から移してきたものです。1941(昭和16)年に建てられ、1971(昭和46)年に改築されました。その後2006(平成18)年に現在のお宮に建て替えられました。桃原集落の各家の家族や親族は、旧暦1月1日のハチウガン(初御願)、ジューグスーシ、9月9日の菊酒、12月24日のトゥミウガン(止め御願)の日に拝みます。



上原

うえはら (方言名=イーバル)

水量が豊富な湧き水が多く、ヤンガーは1995(平成7)年に市指定文化財に登録されています。首里王府時代の伝説の女性である仲村渠マカトの居住跡や平敷屋朝敏の妻・真亀が詠んだとされる「高離節」の歌碑があります。

民俗文化財・その他

- ①「高離節」歌碑
- ②上原ヌン殿内
- ③ 上原氏神
- ④ 拝所

井泉

- ① ハルガー (イーヌカー)
- ② ハルガー (ヒチャヌカー)
- ③ ヤンガー
- ④ イキントーガー
- ⑤ ジョーグチガー

遺跡

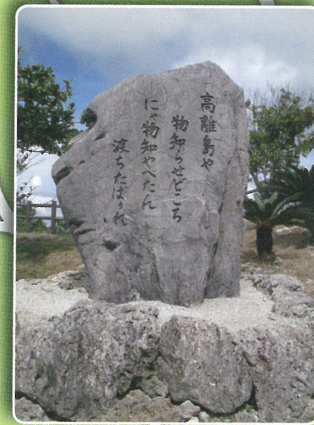
- ① シヌグ堂遺跡

名勝・自然・古道

- ① シガイピラ
- ② ハシンツ
- ③ インチャ
- ④ フルミチ (馬車道)
- ⑤ フシンチャピラ
- ⑥ ナグ山
- ⑦ フタカイバンタ



火立て



「高離節」歌碑

イーバル ドンチ 上原ヌン殿内

集落の祭祀を司る最高の神女はヌルといい、ヌルの住居を「ヌン殿内」といいます。また、そこはヌルや他の神人がウマチーなどの祭祀を行う場所でした。上原のヌン殿内と先ヌン殿内(玉城)は2009(平成21)年3月に改築し、併設されました。



内と先ヌン殿内(玉城)は2009(平成21)年3月に改築し、併設されました。

ヤンガー (万川、ウブガー)

水質が良く、水量も豊富で上原と宮城の両村民の飲料水として大きく寄与してきました。『球陽』には「屋武川」と表記され、1849年に間切の地頭代が他の役人や住民と協力して造ったと記録されています。この改修工事での地頭代の功績を称えた「ヤンガ走り水や石からどう湧つる 与那城御前が御掛親島」という琉歌が残っています(1995(平成7)年、市の有形文化財(建造物)に指定)。



宮城

みやぎ (方言名=ナーグシク)

宮城島の海拔45~64mという台地に位置している集落です。その村を方言で「ナーグシク」と呼んでいます。エイサーやウシデーク(臼太鼓)が今も受け継がれている地域であり、宮城集落のウシデークは2005(平成17)年、市の無形民俗文化財(民俗芸能)に指定されています。



世持神社



龜供養碑

民俗文化財・その他

- ① 旧製糖工場跡
- ② 忠魂碑跡
- ③ 与勝消防団宮城分団ポンプ小屋跡
- ④ 宮城ヌル御殿
- ⑤ 宮城御殿
- ⑥ 地頭門
- ⑦ スンチナー
- ⑧ 地頭火叉神
- ⑨ 龜供養碑
- ⑩ 世持神社
- ⑪ サシ石
- ⑫ 上宮製糖工場跡

井泉

- ① シムンカー
- ② メーガー
- ③ ノンジンガー

名勝・自然・古道

- ① アカチチムイ
- ② フクイジムイ
- ③ ウッタピラ
- ④ スンチバンタ
- ⑤ ニブ山

遺跡

- ① スンチナー遺物散布地



スンチナー

ナーグスク ウドゥン 宮城御殿

『よなくすくの民話』(1989(平成元年))には、「浜に漂着した神木1本を製材にして建てられた」という伝説が記載されています。その御殿では、集落の安泰や無病息災、子孫の繁栄を祈願します。特にその拝みは子どもの発育にご利益があるとされています。一説には北山系の按司を祀っているといわれており、「カミヤグラー」や「観音堂」とも呼ばれています。1962(昭和37)年に一度改修され、2005(平成17)年1月27日には再度現在のコンクリート造りの御殿に改築されました(1995(平成7)年、市の有形民俗文化財に指定)。



ナーグスク 宮城ウシデーク

旧暦8月15日の晩に、イーナーグスク(名城)家を始め、次に宮城御殿、スンチナー、フクイジムイの順でウシデークが奉納されます。一重または二重の円形になって踊るのが古来の体形といわれています。現在、婦人会や老人会が宮城ウシデーク保存会を組織し、昔から変わらぬ踊りを引き継いでいます(2005(平成17)年、市の無形文化財に指定)。



池味

いけみ (方言 = イチミ)

18世紀初めの頃に島外からも移り住むようになり、大正期には人口も増え、独自の自治組織を形成していたといわれています。1926 (大正15) 年、7月15日に宮城集落から行政分離し、1947年 (昭和22) 年の地番変更によって晴れて「字地味」になりました。緩やかな傾斜をした場所に位置し、伊計島や太平洋が見渡せます。

民俗文化財・その他

- ① 慰霊塔
- ② 製糖工場跡
- ③ エードゥマイウーヤーの神屋
- ④ 魔除けの石柱
- ⑤ イークンカミジューヤーの神屋
- ⑥ クラガー
- ⑦ ウドゥン (お宮)
- ⑧ 神屋
- ⑨ 南グスク (ナングスク)
- ⑩ 南グスクの按司火又神
- ⑪ オオガネクノ嶽 (ウーガニクのウガンジュ)
- ⑫ 菟宮

井泉

- ① シラミガー
- ② クチャガー
- ③ ンズガー
- ④ ウンチカー
- ⑤ タチチガー
- ⑥ シルマシガー
- ⑦ ナンガー

遺跡

- ① 池味集落北貝塚
- ② 大兼久遺物散布地

古道

- ① フルミチ

慰霊塔

タチチガー

ウドゥン (お宮)

イークン山にあり、南山王の他魯毎の四男と上根家の娘の間に出生した子孫を祀ってあるといわれている場所です。そこは池味、上原の2集落の神事の中心のところです。現在でも上原集落の神女はそのウドゥンを先に拜んでから各地にある拜所での行事をめぐる。



南グスク (ナングスク)

南山から逃れた宮城按司は、イークン山に住んでいましたが、後にナングスクに移ったといわれています。屋敷跡や自然の岩を利用した門跡、石垣などが残っており、上方の崖下には按司とその妻の墓があります。現在周辺には原野や斜面地にサトウキビの畑が広がっており、遺跡の北東側には池味漁港やトゥンナハの海浜が見えます。



※写真：按司火又神

名勝、自然、古道

名勝・自然・古道

学校教育や生涯学習などで活用出来るフィールドです。古道は現在使われていないところが多いため、雑草に覆われている場所もあります。

民俗文化財・その他

- ① 上原土地改良之碑
- ② ウミナイビ御獄
- ③ クカルンダ古墓群
- ④ メーンミの突堤

名勝・自然・古道

- ① 宮城御獄 (山)
- ② 上原御獄 (山)
- ③ 桃原ピラ
- ④ 宮城島地域気象観測所 (アメダス)
- ⑤ イークン山
- ⑥ アムジガマ
- ⑦ ウッタピラ
- ⑧ ニブ山
- ⑨ カニダガマ
- ⑩ ハギドゥマイピラ
- ⑪ ゴリラ岩

メーンミの突堤

アオカナヘビ (宮城方言：ダキンチリチリー)

宮城島の凝灰岩層 (島尻層群・新里層)

ハシンツ

ゴリラ岩

砂が堆積してできた知念砂層と呼ばれる露頭 (岩石) です。宮城島では親みをこめて「ゴリラ岩」または「ライオン岩」といった愛称で呼んでいます。泥岩、凝灰岩、砂岩、石灰岩が重なった地層になっており、筋状に見えるのはノジュール (団塊) と呼ばれ、石碑などに使われています。この地層は、柔らかく掘りやすい為、戦時中は防空壕や墓地等に利用されました。



宮城島地域気象観測所 (アメダス)

アメダスは1974 (昭和49) 年11月から運用を開始し、現在降水量を観測する観測所は全国に約1,300カ所あります。宮城島のアメダスは、降水量、風向き・風速、気温、日照時間を観測している約850カ所のうちのひとつで、2007 (平成19) 年12月に設置されました。気象状況を時間的・地域的に気象災害の防止・軽減に重要な役割を果たしています。

